



国際通貨基金

対外関係局

(参考仮訳)

プレスリリース No. 11/262
即時解禁
2011年6月28日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

ターマン・シャンムガラトナム・シンガポール副首相兼財務大臣、 国際通貨金融委員会 (IMFC) 議長による声明

「クリスティーヌ・ラガルド氏の国際通貨基金の専務理事選出をお祝い申し上げます。

私は、ラガルド氏が、明確な目的の下に国際通貨基金 (IMF) を導くとともに、IMF が引き続き組織として有効に機能するために不可欠な自律性を今後も確保し、IMF 加盟国の間に広く行き渡っている、コンセンサスの精神を促すものと確信している。

ラガルド氏との会談の際、世界経済及び金融システムの均衡の変化を反映することができるよう、2010年の改革を完全に実行し、今年9月の年次総会の前に開始が予定されているクォータ計算式の見直しを推し進めるなど、IMF のガバナンス改革の継続が肝要という点で我々は合意することができた。

我々は、IMF は様々なパートナーと連携し、金融の安定性に迫る脅威に対処し、その世界経済への影響の可能性を抑制する必要があるとの認識を共にした。また、これらの当面の課題に加え、マルチラテラル・サーベイランス (多国間政策監視) プロセスを強化するとともに、長期的には国際通貨制度を改革するべく、IMF と IMFC が協力することで合意した。

この度の専務理事選出プロセスには、著しく卓越した2名が名乗り出た。アグスティン・カルステンズ及びラガルド両氏は、有力な候補であった。私は、両氏がそれぞれ、同プロセスにおいて多くの加盟国と意見を交わし、常に相互尊重の精神を示し、世界の安定性の促進に向けた IMF の能力を強化する必要性を明確にしたことに対し、感謝の意を表する」